

天草流人帖



定舜上人墓碑
天草市河浦町一町田

天草探見 編

初めに

徳川幕府、吉宗将軍時代に「御定書百個条」という刑法が明文化された。この中に、流刑（遠島）について次のように書かれている。

「江戸より流罪の者は、大島、八丈島、三宅島、新島、神津島、御蔵島、利島、右七島の島へ遣わす。京、大坂、西その国、中国より流罪の者は、薩摩、五島の島々、隠岐国、壱岐国、天草郡に遣わす」

勿論その以前から流罪は行わっていたが、法的整備が行われたという事だ。

流罪の島といえば、伊豆諸島や隠岐の島などが思い起こされるが、なんと我が天草も流謫地であった。天草島に初めて流人が流されて来たのは、1655年（明暦元年）であった。この時何人の流人が流されて来たか不明である。

さらに1692年（元禄五年）には、高野山争論で、行人僧140人が流されて来た。もつともこのうち8人は天草に着く前に死亡している。

その後かなりの人数が流されてきているが、正確な人数は不明のようだ。

それら多くの流人の中で、僅かだが数人の墓が残っている。その墓から、彼らのドラマを見る事ができる。もちろん今日では記録が乏しいので、そのドラマの内容を詳細に明らかにすることはできないが、できる範囲で著わしてみた。

できればもっと深く、流人たちの村での生活の様子や村人との交わり、村人が流人にどう接したか、或いは島抜けの顛末など、知りたいことはいっぱいあるが、記録がない以上、如何ともしがたい。しかし数人とはいえ、残された記録や墓石から、その様子をちょっと覗き見ることはできる。

◇ 天草流人帖目次



初めに

目次

定舜上人

野口瀬兵衛

高野山僧

とつくり墓

二条吉五郎

謎の流人 近江屋伊三郎

流刑考

資料-1 天草流人史

資料-2 村毎受入れ人数等

資料-3 島抜け人数等

参考資料

127 125 122 111 97 91 83 79 69 57 5 3 1

